

ミズホ ピコトランシーバ30周年記念 QSOパーティ ご挨拶

ミズホ ピコトランシーバ 30 周年記念 QSO パーティにご参加いただきありがとうございます。

ピコトランシーバの愛好者を含め、多くの QRPer にご参加頂きました。結果を発表いたします。本 QSO パーティは、ピコトラ愛好家の JE1ECF 斎藤さんの発案により、きゅうあ〜るぴい〜コミュニティにて、企画・運営したものです。開催した 2 日間は、コンディションもまずまず。思いの外飛び、久しぶりにピコトランシーバの完成度の高さをご実感されたことと思います。サイクル 24 はあまり期待できないかもしれませんが、それでもピークが近づいておりますので、今後ともピコトランシーバで大いに QSO 頂き、また大事に使っていただければ、と思います。

さて、これまでアナウンスしておりませんでした。ミズホ通信の高田社長より、最多交信特別賞としてミズホ通信ポケットダイポールアンテナ PAN-62s 新品 2 本をドナーション頂きました。



ミズホ通信ポケットダイポールアンテナ PAN-62s

重量 240g で 50 ~ 144MHz と幅広く使用できるポータブルタイプのアンテナです。本体は一体成型の完全防水で、10 段引き伸ばし式のロッドアンテナ(全長 1.5m×2) は取り外し出来、ロッドアンテナの代わりにワイヤーエレメントを取り付ければ HF ダイポールアンテナにもなります。また、FM 放送の受信アンテナとしても使用できます。

ピコトラ部門での交信数合計が上位の 2 局に進呈いたします。また、参加全局に記念のボールペンをお贈りいたします。



ところで、この QSO パーティはテンポラリな開催であるため、集計ソフトをご用意いたしませんでした。そのためか、特に電子メールで申請された多くの局に得点計算の誤りがありました。誤りについては当方で再計算し修正してありますのでご了承ください。

2011 年 8 月

きゅうあ〜るぴい〜コミュニティ 会長 JF6LIU 富樫 栄
同 コンテスト委員長 JF1ISC 大久保 尚史

ご挨拶

2011年6月11日～12日に行われましたこのQSOパーティが、盛況で無事終了しました。パーティを主催されましたきゅうあ～るびい～コミュニティと、当日参加下さいましたピコユーザの皆様とQRPerの皆様、当日どうしても参加できなかった各局にも厚くお礼申し上げます。

ピコ誕生30年になります。発売以来、途中マイナーチェンジはしても、23年間程続け、使用パーツの都合で生産は終わりましたが、その当時のピコを今も現用機として、QRPで活躍されている局の多いことに、感謝いたします。尚、QSOパーティに参加のOM方から貴重な感想をいただき楽しくまた感動しつつ拝読しました。

ピコ誕生から、今日に至るまで思い出など簡単に述べてみます。

ピコランシーバの企画

目標として「こんなランシーバが世の中になれば、アマチュア無線の楽しさが更に広がるのではないか。」という単純な発想でスタートしました。そのポイントは、

- ① 手のひらサイズの小型SSB、CW機にする。
- ② QRPにして電池運用で、いつでも、どこでも楽しめる。
- ③ 基本性能を大事にして、操作は極限までシンプルに。
- ④ キットとしても、作りやすくモノバンドにして価格も手頃なものにしたい。
- ⑤ 50MHzバンドからスタートして、当時、国内外に存在しなかった。ポケットに入るHF機として展開したい。そのため共通のデザイン、プリント基板にて、各種のバンドのピコを生産する。

小さくて可愛らしいということでピコ (10^{-12}) の単位からピコランシーバと名付けました。

MX-6(元祖タイプ)の生産開始

1981年ハムフェアで試作DSB機を発表、ブラッシュアップを重ねてMX-6(元祖タイプ)ランシーバとして1981年10月20日に発売、100台からスタートしました。オールキットとして誰でも作れるように基板ユニットは、調整済みにしました。お蔭様で、人気上々ですぐに完売し、毎月生産に入りました。

小中学生からOMまで、お客様になっていただきました。

コストを抑えるため、クリスタルフィルターは、輸出用に作られた放出品を安価に入手しました。fは11.2735MHzです。放出品といっても、屈指のクリスタルメーカで特性も良好でした。

毎月の生産で、その入手先で在庫切れになり、fが7.8MHzなら在庫ありということで、これを使って、MX-6Z、MX-2などを作りましたが、これも間もなく在庫切れになり、思案の末に自社用として、小型のクリスタルフィルターを作ることにしました。これを機に、ピコをスーパー(S)シリーズにモデルチェンジしました。



記念すべき初代ピコランシーバ「ピコ6」。発売は1981年10月。

MX-6(50MHz)

MX-6Sの誕生

新型フィルターを搭載したMX-6Sは、MX-6、MX-6Zの出力0.25Wに対しパワーアップをして1Wにしました。そして前機種で省略していた、Sメーター、RIT、外部スピーカマイク端子をつけ、電池は、単3タイプの乾電池、ニッカド、アルカリ電池が使用できるようにしました。

Sシリーズとして、7MHzのMX-7S、21MHzのMX-21S等、次々とHFバンドのピコを増やしていきました。

機種名も、そのバンドをつけるといった単純な考えで進めました。

HFバンドにしますと、50MHzの時より、送信回路のゲインに余裕がでますので、出力は2Wにしました。

こうして各バンドのピコを増やしていき、MX-2F(144MHz 1W)をもって終了しました。



**ピコシリーズの中で最後のリリースとなった機種。発売は 1994 年 4 月。
MX-2F(144MHz)**

ピコのご愛用者との交流

ピコ発売以来、多くのOMから、いろいろなレポート、ご意見が寄せられました。多い日にはそれが1日で20通を超える日もあり、全部の方にお返事の手紙が出せなかったことが心苦しく、改めてお詫びいたします。

レポートのうち一番多かったのは、QRPでのDXレポートでした。例として、

- ◎ MX-21Sと庭の立木に立てた簡易垂直アンテナで、南極昭和基地の局と一週間のうち2回もQSOすることができた。
- ◎ MX-15の300mWのSSBで、1dayWAC(1日で6大陸の局とQSO)完成。

などのFBなレポートを沢山いただきました。またピコ(MX-6SとMX-21S)を散歩、ハイキング、旅行、登山等に持ち歩き、屋外運用のみで、1万局を超えるQSOができた。またピコによりQRPの楽しさを発見したなど、アクティブな運用レポートをいただきました。

一方、技術的なレポートして、ピコをより使いやすくする工夫

- ◎ クリスタル交換にケースの開け閉めするのが不便なのでケースに、クリスタルの真上に窓を空けて、クリスタルにプラスチックの小片をつけて、ケースを開けずにクリスタルを交換できるアイデア
- ◎ ピコ本体でCW運用する時、パネル面についているミニキーでは、指先が痛くなるので、キーの頭にワイシャツのボタンを接着して使用します。

等のアイデアをいただきました。また海外のピコファンからもお便りをいただきました。

これらのFBなレポートは当時のCQ誌上、私共のPRの頁にて、毎号紹介させて頂き、好評でした。

ピコシリーズ年表

1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12
8月																			
⇒ハムフェアDSB試作機出展																			
10月発売開始																			
⇒MX-6(50MHz SSB(USB)/CW 0.25W)																			
8月																			
⇒MX-6Z(50MHz SSB(USB)/CW 0.25W)																			
9月																			
⇒MX-2(144MHz SSB(USB)/CW 0.2W)																			
11月																			
⇒MX-15(21MHz SSB(USB)/CW 0.3W)																			
6月																			
⇒MX-6S(50MHz SSB(USB)/CW 1W)																			
8月																			
⇒MX-10Z(28MHz SSB(USB)/CW 0.3W)																			
11月																			
⇒MX-21S(21MHz SSB(USB)/CW 2W)																			
12月																			
⇒MX-7S(7MHz SSB(LSB)/CW 2W)																			
1月																			
⇒MX-3.5S(3.5MHz SSB(LSB)/CW 2W)																			
6月																			
⇒AM-6X(50MHz AM 0.25W)																			
4月																			
⇒MX-28S(28MHz SSB(USB)/CW 2W)																			
5月																			
⇒MX-14S(14MHz SSB(USB)/CW 2W)																			
10月																			
⇒MX-24S(24MHz SSB(USB)/CW 2W)																			
6月																			
⇒MX-18S(18MHz SSB(USB)/CW 2W)																			
5月																			
⇒MX-2F(144MHz SSB(USB)/CW 1W)																			
MX(AM)シリーズ																			
7月																			
P-7(7MHz CW 0.5W) ⇒																			
11月																			
P-7DX(7MHz CW 0.6W) ⇒																			
6月																			
P-21DX(21MHz CW 0.5W) ⇒																			
1月																			
FX-21(21MHz SSB(USB)/CW 2W/0.5W切替え) ⇒																			
3月																			
FX-6(50MHz SSB(USB)/CW 1W/0.5W切替え) ⇒																			
7月																			
FX-7(7MHz SSB(LSB)/CW 2W/0.5W切替え) ⇒																			
P-7DX																			
FX-21																			
Pシリーズ/FXシリーズ																			



～Pシリーズ/FXシリーズ～

デスクトップ(卓上型)として作りましたが、電池を内蔵し、QRPの移動用無線機としていかにコンパクト化しました。PシリーズはCW専用ですが、FXシリーズはSSB/CW両用のQRP機で、内部にはピコの基板が使えるように作りました。FXシリーズはパネル面スイッチでパワーの切替ができます。

ピコの保守サービスについて

保守パーツの都合で、難しくなりました。しかし消耗の激しいバリコンはメーカーが異なりますが、20PF×2のFMポリバリコンは現在も入手できます。

使用上、一番気をつけたいことは、乾電池を長期間に渡り入れたまま放置しないことです。特にスイッチを切り忘れて放置しますと、酸化、液モレの原因となり、電池の電解液は、電池ホルダーを酸化し、ひどい時にはプリント基板上に流れますと、プリント配線が溶けて、再生不能になります。

最後に

ピコご愛用に感謝します。

ピコを生産したのは、ミズホ通信ですが、それを育てて、フルに活用下さったのは、ご愛用下さっている皆様です。暖かいご支援でミズホ通信を40年近く続けてくることができました。心よりお礼申し上げ、QRPの益々の普及・発展をお祈りいたします。

2011年 盛夏

ミズホ通信

高田 継男 JA1AMH